

2019・12・12 開会

## 第4回町議会定例会

令和元年第四回町議会定例会が、十二月十二日に開会され、十七日に閉会しました。

この町議会定例会では、木幡町長の行政報告のあと、一般質問のほか、条例の一部改正、各会計補正予算など、議案二十二件、承認1件、同意1件について審議しました。

おもな内容については、次のとおりです。



第一項の規定により専決処分したものです。

◆長万部町パートタイム会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例

◆長万部町フルタイム会計年度任用職員の給与に関する条例

◆会計年度任用職員制度の導入に伴う関係条例の整備に関する条例

◆会計年度任用職員制度の導入に伴い、関係条文の整備を行うほか勤務条件等に関し必要な事項を定めるための提案

◆長万部町し尿処理施設解体基金条例

し尿処理施設解体及び撤去に要する経費の財源として基金に積立をし運用できるよう新たに条例を定めるもの。

◆町長等の給与に関する条例の一部を改正する条例

◆職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

◆町議会議員の期末手当支給に関する条例の一部を改正する条例

◆職員の特務勤務手当支給に関する条例の一部を改正する条例

◆一般会計補正予算（第七号）（専決処分）

◆長万部町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例

◆長万部町収入証紙条例の一部を改正する条例

◆山越郡衛生処理組合の解散に伴い関係条例の一部を改正するもの

◆長万部町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

◆国民健康保険法施行令の一部改正に伴い、国の基準と同額とするもの

◆長万部消防団の設置等に関する条例の一部を改正する条例

◆長万部町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例

◆地方公務員法の一部改正に伴い、所要の改正を行うものです。

◆議決の変更について

令和元年六月十三日に議決された、長万部町防災行政情報伝達システム整備事業デジタル同法無線システム整備工事に係る契約金額が二億六千八百八十万円から二億六千七百三十三万三千円へ変更となるから議会の議決を求めるものです。

◆山越郡衛生処理組合の解散に伴う財産処分について

解散に伴う財産処分について、長万部町に全て帰属させることについて協議するための提案です。

◆一般会計補正予算（第八号）

令和元年度一般会計予算に歳入歳出それぞれ六百十五万二千円が追加され、予算総額五十三億三千三百九十七万七千円となりました。

◆国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

令和元年度国民健康保険特別会計予算に歳入歳出それぞれ八二十六万三千円が追加され、予算総額八億六千九百四十八万七千円となりました。

◆介護保険特別改正補正予算（第二号）

令和元年度介護保険特別会計予算に歳入歳出それぞれ四百五十三万九千円が追加され、予算総額八億一千九百九千円となりました。

◆公共下水道事業特別会計補正予算（第三号）

令和元年度公共下水道事業特別会計補正予算に歳入歳出それぞれ五百八万円が追加され、予算総額七億八千四百三十七万六千円となりました。

◆ガス事業会計補正予算（第二号）

収益的収入に二万三千円が追加され、予算総額一億一千八百四十四万三千円に、また、収益的支出に四百五十六万円が追加され、予算総額一億三千二百九十六万円となりました。

◆水道事業会計補正予算（第二号）

収益的支出に二百十万円が減額され、予算総額一億四千六百一十一万円となりました。

◆病院事業会計補正予算（第二号）

収益的支出に百十八万七千円を追加し、予算総額六億七千九百七十四万七千円となりました。

## 木幡町長の 行政報告

= 令和元年12月12日 =

### 防災対策

今年度の防災訓練は、地震や津波、土砂災害をテーマとした「防災出前講座」を高齢者交通安全教室と合同で開催し、五月十七日の大町地区を皮切りに町内五箇所五地区より九十七名の参加をいただきました。

ました。

また、七月十八日には、ふれあいハイム長万部で、入所者など二十六名の参加をいただき、風水害、土砂災害に係る講話を実施しております。

九月十日には、長万部高等学校で災害講話を、十一月十二日には、あつまんべで北海道から講師を招き、参加者二十九名のもと「自主防災組織による地域の防災力強化を旨とした研修会」を開催し、防災意識の高揚に努めてまいりました。

防災行政無線の関係では、送信局などの設置工事も順調に進み、来年一月からの町内各家庭を訪問しての防災ラジオ配付に向けた準備を進めているところであります。なお、防災ラジオの戸別配付にあたり、本年六月に議決をいただきました工事請負契約の締結について、本定例会に議決の変更を提案いたしております。

今後とも、防災訓練・集会の開催などを通じて、災害に強いまちづくり、安全・安心のまちづくりを進めてまいります。

## 東京理科大学関係

今年度は、十月二十七日に神楽坂キャンパスにおいて開催された「東京理科大学ホームカミングデー2019・イ

ン・神楽坂キャンパス」では、ふるさと納税の返礼品のPRとして、ホタテのバター醤油焼きの実演販売や理科大連携アグリ事業で生産されている「エンリッチ」ミニトマトとトマトジュースの試食・試飲及び販売を行い、ふるさと納税のパンフレット配布も含めPR活動を実施し、理科大関係者をはじめとした多くの来場者のみなさんからは大変好評でありました。

町内においても、十一月二日と三日に開催された町総合文化祭でミニトマトとトマトジュースの試食・試飲と販売があり、多くの町民が訪れる盛況ぶりでした。

ミニトマトの生産状況は、冷夏と極度の日照不足などで生育が心配されておりましたが、秋以降の日照の回復により徐々に糖度も上がり始め、現在は道内を重点的に販売先確保が順調に進められているところであります。

また、今月中から冬期間の暖房コストを節約するため、温泉熱の利用設備の設置が行われる予定であります。

今後は、地方創生推進交付金事業の最終年度として、次年度以降の自立・自走している事業とするため、雇用・売上・出荷量などのKPI目標の達成に向け、引き続き連携する関係企業との協議を密にし、理科大と更なる連携を

深め取り組んでまいります。

## 移動町長室

町政について町民の方々と自由に意見を交換し、より住み良いまちづくりを進めるため、「移動町長室」を十一月六日から町内四会場で開催いたしました。

今回の移動町長室には、延べ三十八人の方々が出席され、来年一月から町内全戸に配付される防災ラジオの実物を使っての説明なども含め、町政全般について町長から報告があり、町民の皆様からは、ハザードマップの改訂を求める意見など災害対策全般についてや、町職員の電話対応について、国道の除雪対策、知来農場の悪臭問題、新幹線建設工事に関すること、町立病院の再編統合報道への心配の声、町道本通線の道道昇格による整備に関することなど、広範囲な分野において多くのご意見・ご要望などをいただきました。

これらの貴重なご意見・ご要望を今後の町政運営に活かしてまいります。

## 北海道新幹線関係

この度、北海道日本ハムファイターズが毎年取り組ん

でいる「北海道全力応援プロジェクト」で、選手が市町村のまちづくり・まちおこし・PRなどに寄与できる、市町村応援大使の2020年シーズンに本町も応募しておりますが、全道179市町村の中から募集対象の十八市町村に本町が見事当選いたしました。

十一月二十四日に札幌ドームで開催された「北海道日本ハムファイターズ・ファンフェスティバル2019」において、2020年シーズンの「北海道179市町村応援大使」の各市町村担当選手を決める抽選会があり、これには町内の少年野球チーム「長万部ソウルズ」の子どもたちと保護者の方々も参加しての抽選を行った結果、2020年の長万部町の応援大使は「斎藤佑樹」選手と「石川亮」選手との二名が決定いたしました。

これにより、一年間の期間限定ではありますが、選手肖像や球団ロゴ等において、町のポスター・広報紙・ホームページ等への掲載、特産品のプロモーションなどへの活用といたことが可能となります。

今後は、貴重な機会をいただきましたので、両名選手による本町のPRや町内イベントなどを企画していきますので、ご報告させていただきます。

## 北海道新幹線工事関係

現在、町内では四件のトンネル工事が契約されており、そのうち二件のトンネル工事が本坑掘削中であります。

十一月三十日現在で、掘削中の立岩トンネルのルコツ工区では、本坑五千メートルのうち九百八十二メートルが、また、内浦トンネルの静狩工区は本坑五千五百七十メートルのうち五百八十七・六メートルが掘削されたところであります。

立岩トンネルの豊津工区、豊野トンネル他工区についても、来年度の掘削開始に向け、施工計画の準備を進めております。

また、北海道新幹線に関係して、町内の任意団体の「長万部を創造する会」から千二百五十九名の町内外の方々が署名した「長万部高速貨物基地誘致に関する嘆願書」の提出があり、十月二十九日に受理いたしました。

鉄道貨物に関しては、現在、国において北海道新幹線の高速化のため、青函物流の抜本的な転換を模索していると聞いておりますが、北海道の経済や住民生活に重大な影響を及ぼす可能性があるため、慎重な議論が望まれるところであります。



町としては、今回の大規模な嘆願行動を重く受け止め、今後、関係機関や利害関係者からの情報収集に努めるとともに、しかるべき時期、しかるべき相手に対して必要な対応を検討していく判断材料といたします。

## シャクシャイン ロード事業

シャクシャイン没後三百五十年の今年を契機とし、地元地域の歴史と文化の理解向上を図ることを目的として取り組んできたシャクシャインロード事業について、慰霊の旗リレーを国縫から新ひだかの区間で九月七日から二十三日の期間で実施いたしました。

我が町では、たたかい当時の移動方法にならって、国縫のシャクシャイン古戦場跡碑から静狩までは砂浜を中心に約二十キロメートルを徒歩で、静狩から豊浦までは船を用いて慰霊の旗を運びました。砂浜の歩行では複数の区間を設定して、延べ三十一名が参加し、また船の移動では慰霊の旗のパッチワークを製作した静狩地区の子どもたち七名が同乗し、豊浦漁港での引継ぎセレモニーには豊浦町の子どもたちを含む延べ二十五名が参加しました。

その後、新ひだか町までの約二百四十キロメートルをす

べて徒歩で移動し、十二自治体と各地区のアイヌ協会の協力を得ながら、延べ三百二十五名の参加をいただいて、九月二十三日に新ひだか町にゴールし、慰霊の旗を新ひだか町に引継ぎいたしました。

また、リレーに使用した慰霊旗は、その後、アイヌ文化刺しゅうに多大な協力をいただいた苦小牧アイヌ協会によって、十月二十六日、二十七日に第七十一回苦小牧市民文化祭で展示され、長万部町内においても、十一月二日、三日に行われた第五十七回長万部町総合文化祭で展示したところでもあります。さらに、慰霊旗のうち一枚は、新ひだか町のシャクシャイン記念館で常設展示を行う予定となっております。

## 生活環境関係

今年度四月から十月までの渡島廃棄物処理広域連合の焼却施設に排出した長万部町の可燃ごみの量は約千七トンで、前年度同期と比較し約二トン増加しております。

また、ごみの減量化の一環として実施しております衣類の無料回収は、役場窓口での随時受付と五月の巡回地域回収を実施し、今年度は十月末で二百四十五キログラムの衣類を回収いたしました。長万

部町地域女性団体連絡協議会でも二回の衣類回収について、ご協力をいただいております。廃食用油は、今年度も役場・福祉センター・各会館のごみステーションに無料回収ボックスを設置して、現在までに五百二十リットルを回収しております、使用済小型家電についても、同じく役場庁舎内の無料回収ボックスで、五百キログラムを回収しております。

町民の皆様には、今後ともごみの減量化やリサイクルへのご協力をお願いいたします。山越郡衛生処理組合は、令和二年三月三十一日をもって解散することを九月の定例会において議決をいただき確定しているところであります。

解散に伴う財産処分につきましては、長万部町にすべて帰属させる予定で、本定例会に提案いたしております。し尿処理施設については、解体設計を行い解体整理する予定となっております。

し尿及び浄化槽汚泥の収集・運搬、処分につきましては、令和二年度より各町において実施することになりますので、本定例会に関係条例を提案いたしております。

## 町民の健康増進等

健康づくりの推進につきましては、特定健診やがん検診

といった各種検診を実施しており、受診率向上のため無料クーポン券の配付や、対象者への電話勧奨等を積極的に行っております。

次の特定健診・がん検診は、二月に実施する予定でありますので、引き続き受診勧奨等に努め、受診率向上を目指してまいります。

園児や生徒を対象とした健康教室では、十一月七日に幼稚園で食育教室を開催し、栄養バランスについての講話と、園児が育てた野菜を使った調理実習を実施し、食育に関する理解を深めました。

また、小学校四年生と高校三年生を対象に開催した育児体験教室では、お母さんにインタビューをしたり、赤ちゃんとふれあい、命の大切さを学んでいた、きました。

## インフルエンザ等の予防

高齢者のインフルエンザ予防接種は、十一月末現在八百二十四人から申請がありました。

インフルエンザ流行の時期でもあることから、うがいや手洗い、手指消毒、外出時のマスク着用等の励行を促し、予防の徹底を図ってまいります。このほか、ノロウイルスやロタウイルスによる感染症にも備え、うがいや手洗い等の励行を勧めてまいります。

## 幼児教育 保育の無償化

国においては、幼児期の教育及び保育の重要性に鑑み、総合的な少子化対策を推進する一環として、子育てを行う家庭の経済的負担の軽減を図るため、本年十月から幼児教育・保育を無償化する制度が創設されたところであります。

本町におきましても、三つの児童施設すべてが無償化の対象となり、さかえ保育所三十九人、マリア幼稚園三十八人、いずみ保育園十四人の合計九十一人の子どもの保育料等が無償化され、保護者の経済的負担が軽減されております。

## 高齢者福祉関係

地域敬老会は、九月七日を皮切りに二十五地域二十二会場で実施され、対象者千百九十一人に対し五百三十五人の出席をいただき、出席率は四十四・九％となりました。

各会場とも、町内会等のみなさんによる特色ある料理の提供や趣向を凝らした催しなどにより、出席された方々から大変喜ばれておりました。

町内会等のみなさんには、ご苦勞をおかけしますが、高齢者の集まる場の一つとして継続

されることを願っています。

また、今年も長寿のお祝いと社会貢献へのお礼をこめて、九月九日から十一日までと十三日から十六日までの計七日間、老人福祉センターを無料開放したところ三百六人が利用されました。

さらに、町内にある公衆浴場についても助成を行い、無料開放を実施したところ七百三十五人が利用されました。

十一月六日には、福祉センターにおいて、日頃の運動不足解消と会員の協調、親睦の輪を広げることを目的に、老人クラブ運動会が十二クラブ百人の参加で開催されました。

## 冬期福祉給付金 (福祉灯油)

本格的な冬に向かい、灯油料金、電気料金の高止まりもあることから、高齢者や障がい者等で低所得の状況にある方に灯油購入費等の一部を助成し、冬期間の増高経費に対する経済支援として、前年度と同様に冬期福祉給付金事業を実施するため、本定例会に補正予算を提案いたしております。

## 生活支援体制 整備事業

明るく活力ある超高齢化社会を構築するために、あらゆる

る住民が役割を持ち、助け合いながら暮らすことができる地域共生社会の実現が求められております。

昨年四月に発足した十名の会員からなる長万部町生活支援体制整備事業協議体において、高齢者の地域課題の低減・

解消に向けた住民主体の助け合い活動についてアイディアを出し合い、長万部町社会福祉協議会に所属している生活支援コーディネーターがパイ

プ役となり取組を進めております。『話し合いの場しゃべれろ』では、本年度は四つのプロジェクトチームが立ち上がり、地域食堂やゴミ出し支援、高校生との防災教室、ご長寿訪問を試行して

おり、その成果報告会を二月に開催を予定しております。今後は、より多くの町民のみなさんにこの事業を知っていただき、共に支え合う体制づくりを目指してまいります。

## 農業関係

家畜の主たる飼料作物の牧草やサイレージ用トウモロコシは、大きな天候の崩れも無く、おおむね平年並の収量を確保している状況であります。

生乳生産量は、四月から九月まで約五千四百六十トンを出荷し、前年に比べ約九十七トンの減となり、乳代は約四億

五千九百八十一万円で、前年に比べ約四百二十万円の減となっております。

黒毛和牛の四月から九月までの販売頭数は百三十五頭、販売金額は一億二百六十二万八千円で、前年同期と比較して、販売頭数は五頭の増で、販売金額は五百二十三万円の増となりました。

牧野関係は、生産コストの低減と酪農経営の安定を図るため、公共牧場運営事業を実施しておりますが、十月二十五日に下牧が完了しております。

この間の入牧延べ頭数は六万四千六百九十七頭で、前年に比べ百七十頭の増となりました。

新規就農者対策としては、八月三十一日に函館市で開催された「第三回おしま農業のお仕事フェア」、九月七日に東京都で開催された「新・農業人フェア」、十月二十七日に札幌市で開催された「北海道新規就農フェア」に長万部町のブースを出展し、農業に興味がある来場者八組八名の就農相談があり、長万部町のPRや就農への情報発信を実施しております。

## 林業関係

町有林一般造林事業は、蔵岱地区の搬出間伐事業十六、二ヘクタールを十月十八日に

完了しており、平成三十年度に立木販売事業にて皆伐を行った平里地区の町有地に地拵・植栽事業として三ヘクタールを十月三十日に完了しております。

また、森林整備センターとの分収造林事業の国縫地区十九・二十七ヘクタールの除伐(Ⅱ)事業は、九月十日に完了しております。

## 漁業関係

本町のホタテ貝養殖漁業での十一月末現在の種苗の生育状況は、へい死・変形等は昨年に比べ少なく、順調に生育しておりますが、春の耳吊り時期までの生育状況を渡島北部地区水産技術普及指導所等各関係機関と連携し、調査を行う予定となっております。

また、成貝は十二月からの水揚げが予定されておりますが、生育不良により、来年二月からの出荷を予定しております。

町単独事業でありますホタテ貝稚貝緊急対策事業及び国のアイヌ政策推進交付金事業にて行ったホタテ貝稚貝管外移入作業は、両事業共に本年十一月末までに終了しております。

本年の秋鮭漁は、十一月二十二日現在、漁獲量は約四百五十六トンで、前年に比べ約

九十二トンの減となっており、漁獲金額も約二億二千三百六十五万円で、前年に比べ約九千五百七十八万円の減収となっております。

## 商工観光関係

中小企業の業況は、原材料価格の上昇や人手不足への懸念など、中小企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いており、中小企業の健全育成と経営安定のため、国や道の様々な金融支援に対し、関係機関と連携し、町としての認定窓口等の設置を行っております。

また、長万部商工会では、会員の高齢化や後継者不足などにより、会員数が衰退傾向にあることから、地域活性化を図るため、昨年度から後継者対策を含む経営改善等の支援を実施しており、本年度は既に十七事業者が申請し、経営改善に努めております。

上期の観光客入り込み数は、昨年度の約二十九万一千六百人にに対し、本年度は約二十九万一千七百人と、ほぼ横ばいで推移しており、依然として通過型の観光客が中心となっていることが覗えます。この通過型観光から滞在型観光への変換を図るため、六月に町内主要団体を構成員とした長万部町観光地域づくり協議



会」を立ち上げ、モニターツアーを実施し、インバウンドをはじめとした通過型観光客を滞在型にし町内への経済効果を生むべく、体験観光の受入体制強化に努めております。

また、観光客誘致事業として、札幌市で開催されたサッポロビアガーデンふさとPRステージに参加したほか、東京都葛飾区で十月二十五日から二十七日に開催された第三十五回葛飾区産業フェアへ昨年に引き続き出展し、長万部町の観光PR並びに特産品の販売を行いました。

これらのイベントには、町のキャラクター「まんべくん」も参加し、誘客効果を高めております。

## 労政関係

本年度も季節労働者の労働環境向上のため、渡島檜山北部通年雇用促進支援協議会を中心として、雇用相談や求人情報の提供、技能研修などを通して、通年雇用に向けた支援を行っております。

## 消費者相談関係

近年、悪質商法や訪問押し買い詐欺、料金不正請求など次々と新しい手口による消費者問題が多く発生しており、

消費者の安全確保についての苦情相談など、住民に対して必要な情報収集や提供を行うため「消費生活相談員」を配置するとともに、全国消費者生活情報ネットワークを活用して全国の最新苦情相談情報を収集しております。

今後、ますます巧妙化する手口への対応が必要とされる中、引き続き消費生活相談員を配置することにより、被害防止講座の開催、関連する部署間の情報交換や町広報での消費者の安全確保に関する情報周知を継続して行い、住民の消費者生活被害の予防に努めてまいります。

## 建設関係

道路維持関係では、町道中山大通線外舗装補修工事について、工期内の十一月十四日に完成しております。

建築事業では、長万部町住宅生活基本計画及び公営住宅長寿命化計画策定業務委託について、令和二年三月十三日までの工期で業務実施中であり

ます。その他、各公共施設や町営住宅の修繕工事については、計画的に実施しております。

土木事業では、長万部中央跨線橋の高欄が腐食、欠損している部分について、これを補修する長万部中央跨線橋高

欄補修工事は十月二十五日に完成しております。

土木事業のうち河川関係では、茶屋川地区の普通河川に堆積した土砂を除去するための普通河川千島川維持工事については、工期内の十月七日に完成しております。また、流水により崩落した護岸を復旧する普通河川南栄川修繕工事につきましても、工期内の九月十三日に完成しております。

国の社会資本整備総合交付金事業を活用して実施する、橋梁長寿命化のための知岱橋修繕工事を十二月二十日までの工期で、同じく国の交付金を活用する長万部町橋りょう点検調査業務委託を令和二年一月三十一日までの工期でそれぞれ施工中であります。

除雪関係では、協同組合長万部町建設協会と十一月一日に委託契約を締結し、町道や公共施設等の除雪作業を実施してまいります。

公園事業では、ふれあい公園第二キューピクル更新工事につきましても、工期内に完成しております。今年度の長万部公園キャンプ場の利用は、十月三十一日で終了いたしました。キャンプ場の利用者は三千七百三十人で、昨年度に比べ二十五・六%の増となっております。

あやめ公園パークゴルフ場の利用者は五千四十人で、昨年度に比べ七・八%の減とな

なっております。

## 公共下水道事業

下水道マンホール蓋交換外修繕工事は、十一月十一日に完了しております。

また、終末処理場内の返送汚泥ポンプ分解整備外修繕工事は、令和二年一月二十八日までの工期で施工中であります。

昨年度から引き続いて、し尿・浄化槽汚泥を下水道施設で受け入れて処理をする汚水処理施設共同整備事業は、完成期限を令和二年三月三十一日までとしたMICS棟建設工事を順調に施工中であります。

## ガス事業

ガス本支管改良工事の本町二・三号線工区及び北十二号線外工区は、それぞれ九月二十五日に完了しております。

また、天然ガス事業関連での天然ガス及び温泉湯送管入替修設工事は、十一月二十九日に完了しております。

## 病院事業

町立病院関係では、十月一日付で内科臨時医師一名を採用し、医療体制の充実を図っております。

## 消防関係

また、医療用画像管理システム一式の納入を九月十九日に完了しております。

今年十一月末日現在の火災発生件数は五件で、建物が二件・車両が一件・野火が二件発生しております。救急件数は二百四十六件で、うちドクターヘリでの搬送は十三件となっており、昨年同期より火災が二件の増、救急が三十一件の減、ドクターヘリ搬送件数は三件の増となっております。

火災予防の事業では、秋の全道火災予防運動期間中、全町にポスターや「火の用心」の旗を掲示したほか、福祉施設や旅館、大型店舗など不特定多数の方が出入りする施設の防火査察、女性消防団員による街頭啓発や防火訪問、各地域の分団による防火査察や防火広報を実施しました。

救急関係の事業では、長万部高校のインターンシップ研修生に対し普通救命講習を実施したほか、水産加工研修生・保育所・老人施設・学校等を対象とした救急講習を行い百八十四名が受講いたしております。

消防団の事業については、十一月十七日に新入団員四名を対象に教育訓練を実施いたしました。